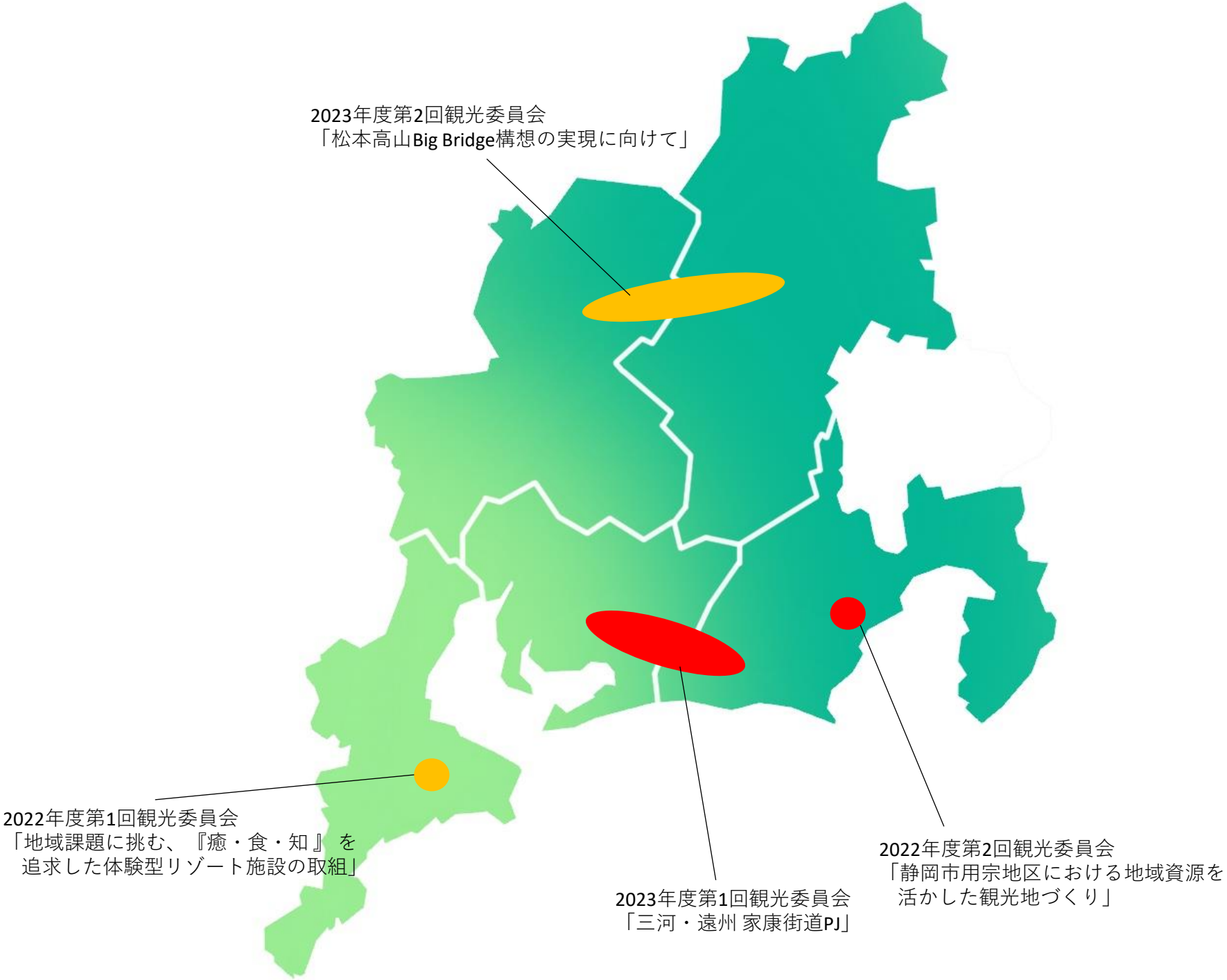
一般社団法人中部経済連合会

観光委員会
活動記録

Since 2022

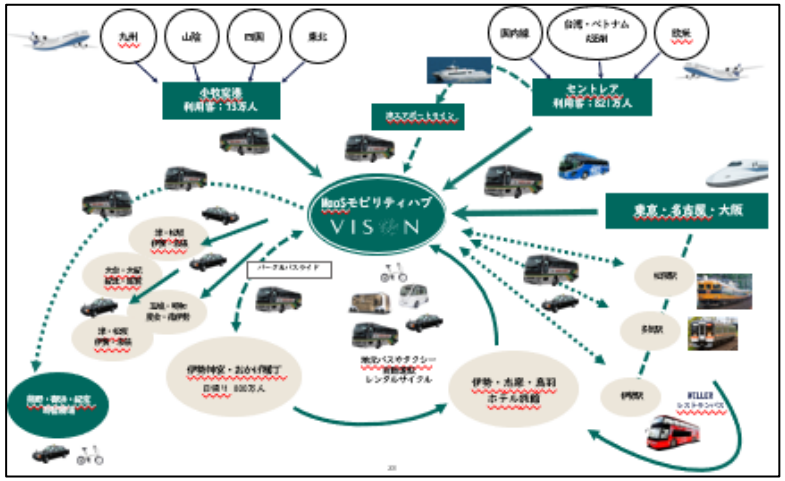
一般社団法人
中部経済連合会
CENTRAL JAPAN ECONOMIC FEDERATION


2023年度第2回観光委員会
「松本高山Big Bridge構想の実現に向けて」
2022年度第1回観光委員会
「地域課題に挑む、『癒・食・知』を
追求した体験型リゾート施設の取組」
2023年度第1回観光委員会
「三河・遠州 家康街道PJ」
2022年度第2回観光委員会
「静岡市用宗地区における地域資源を
活かした観光地づくり」

2022年度第1回観光委員会（講演会）
「地域課題に挑む、『癒・食・知』を追求した体験型リゾート施設の取組」

VISON全景

スペイン・サンセバスチャン市と「美食を通じた友好の証」を締結



VISONを中心としたモビリティの強化

1．講演日時・場所

2022年7月29日（金）10:00～11:30
名古屋栄ビルディング 12階 特別会議室にて開催

2．講演者

株式会社アクアイグニス
ヴィソン多気株式会社　代表取締役　立花 哲也氏

3．講演概要

2012年、三重県菰野町に、湯の山温泉の「癒し」と「食」をテーマにした複合温泉リゾート「アクアイグニス」をオープンし、100万人の来場者を呼び込み、菰野町の地方創生に貢献した。この実績を受けて、多気町から35万坪の広大な土地を任され、その土地に日本最大級の商業リゾート「VISON」をオープンした。「VISON」は、9つのエリアに分かれており、温泉施設や、和食に特化したエリア、地元の野菜などが並ぶマルシェや、農園のエリアがある。それぞれのエリアが、地元の企業や大学と共同で魅力付けを行い、ここにしかない唯一無二の空間を作っている。また、サンセバスチャン市と「美食を通じた友好の証」を締結し、本国で人気を誇るバルを3店舗誘致した。これらの魅力によって、開業初年度は、コロナ禍であったのにも関わらず300万人もの来場者を集客した。多くの集客が期待できる「VISON」を中心に、カーシェア・タクシー配車・シェアバス・シェアサイクルなどのモビリティを増やし、観光だけでなく、地域の方の生活や高齢者のモビリティになることで、地域課題解決の一助となることも目指している。

4．観光委員会を通した気づき

大規模な観光事業により、モビリティの活性化や**交流人口の増加が、地域活性化につながる**ことが改めて分かった。また、三重県にある湯の山温泉や、伊勢神宮といった観光資源に訪れた際の宿泊地となるなど、**三重県への観光の価値を高める施設**ともなっていることが分かった。

2022年度第2回観光委員会（視察会）
「静岡市用宗地区における地域資源を活かした観光地づくり」

１．視察日時

2022年11月11日（金）9:00～17:00

２．行路

名鉄バスセンター（出発）→長篠設楽原PA（休憩）→KURAYA KATO（昼食）→現地視察→長篠設楽原PA（休憩）→名鉄バスセンター（解散）

KURAYA KATO
（イタリア・フレンチレストラン）

日本色
（古民家を改装した宿泊施設。左が外観、右が内観）

West Coast Brewing
（クラフトビール醸造所）

３．視察概要

用宗地区は、静岡市駿河区の西南端に位置し、シラス漁をはじめ漁業が盛んであるが、近年、少子高齢化による「空き家問題」が深刻化している。これに対し、地域の不動産事業者が中心となって、地域の歴史的資源や文化、自然景観、商業施設を活用し、観光地として再生を目指しているため、その様子を視察した。昼食の場となった「KURAYA KATO」は、昭和5年に建てられた蔵をリノベーションしてできた飲食店である。外観は古き良き日本の面影を残しつつ、内観は現代的なものになってる。次に、当地区の開発を手掛けるCSA不動産から、リノベーションをはじめ用宗地区での取り組みについて説明を受けた。古民家を改装した宿泊施設「日本色（にほんいろ）」の内観は、現代的でありながらも、和のテイストも取り入れられ、囲炉裏やシアタールームがあり、ゆったりとくつろげるようになっていた。当施設のサービスとして、トゥクトゥク（三輪タクシー）による送迎や、しらす漁体験のアクティビティといった非日常と地域の暮らしを感じられるようになっている。最後に視察したクラフトビール醸造所「West Coast Brewing」は、用宗の良質な地下水を使用し、これまでに170種類以上ものクラフトビールを醸造しており、直営ホテルのタップルームでは、作り立てのクラフトビールを楽しむことができる。

４．視察会を通した気づき

当地域には、古くからある漁港の姿と、観光地域作りの開発によって生まれた現代的な建築物が見事に融合し、独特な空間を創り出していた。視察会を通じて、**強い気持ちで先頭に立ってまちづくりを進める地元の動きが県内外から多くの事業者の進出を促した**こと、地域住民の理解、協力を得るには**地域のニーズや文化を尊重した取り組みが重要である**ことなどを知っていただく機会となった。

2023年度第1回観光委員会（視察会）
「三河・遠州 家康街道プロジェクト」

１．視察日時

2023年5月12日（金）9:00～17:00

２．行路

名鉄バスセンター（出発）→岡崎城→ホテルコンコルド浜松（昼食）→浜松城→設楽原歴史資料館・決戦場見学→名鉄バスセンター（解散）

岡崎城

浜松城・大河ドラマ館

設楽原歴史資料館・決戦場

３．視察概要

大河ドラマ「どうする家康」の放送を契機に大きな注目を集めた中、「愛知県東三河広域観光協議会」と岡崎市や浜松市などが連携し、県境を跨いだ広域の観光ツアー造成に取り組んでいたことから、当コースの視察を行った。最初に、グレート家康公「葵」武将隊の案内で、家康公が生まれた岡崎城を視察した。岡崎城の中には、当時の城郭の模型や、出土した刀剣などがあり、家康公の時代をしのばせるものであった。家康公が29歳から45歳までの17年間を過ごした浜松城は、歴代の城主が幕府の要職に多く登用されたことから「出世城」と呼ばれるようになった。場内にある井戸は、堀尾吉晴が浜松城主の時代に造られたものであり、現在でも本物を見ることが出来る。最後に、長篠の戦いの舞台となった設楽原歴史資料館・決戦場の視察をした。資料館には、設楽原布陣図や信玄砲、火縄銃、鉄砲玉といった多くの資料や文献のほか、戦没者を弔うための地域の祭り「火おんどり」の紹介などもされていた。現地は、狭隘な土地であり、武田軍の騎馬隊の機動力を削ぐことに成功した。この地が決戦の地となった時点で、織田信長公の作戦勝ちであった。

４．視察会を通した気づき

中部地域には、徳川家康ゆかりの寺社や城郭などの史跡が多数あるものの、個々の情報発信に留まり、地域一体でのストーリー性のあるコンテンツ造成や魅力的なＰＲができていなかった。このような中、家康公の生涯をなぞった周遊ルートとなっており、参加者からは、「**ストーリーに沿って順序良く観光スポットを巡ることで、個々の施設の魅力や価値についてより理解が深まり、満足度が高まる**」や「**実際に現地に行くことで新たな発見があった。百聞は一見に如かずということを再認識した**」などの感想が出るなど、施設・名所が持つ魅力の発信方法についての学びに繋がった。

2023年度第2回観光委員会（講演会）
「松本高山Big Bridge構想の実現に向けて」

1．講演日時・場所

2023年12月13日（水）10:00～11:30
名古屋栄ビルディング 12階 特別会議室にて開催

2．講演者

環境省　中部山岳国立公園管理事務所　所長　野川裕史氏

3．講演概要

2016年に「明日の日本を支える観光ビジョン」が発表され、10の改革の柱の1つに、国立公園の活用が挙げられた。同年、国立公園を観光利用するため「国立公園満喫プロジェクト」がスタートした。2018年に中部山岳国立公園も対象公園となり、wi-fi整備などのハード整備、多種多様なプログラムの作成などのソフト開発、プロモーションの3つを軸に、磨き上げを行った。さらに、国立公園だけでなく、観光都市である松本市、高山市を含めたエリアが連携し、ひとつの観光圏として磨き上げを行っていくことで、より効果を高めていくべく「松本高山Big Bridge構想」が立案され、2021年から、地元の観光協会や自治体が中心となり、「松本高山Big Bridge構想実現プロジェクトチーム」が立ち上がった。当チームが共通の目標やビジョンを持ち、横断的な体験プログラムの造成や、滞留拠点の整備、トレイルルートの設定などを行っている。2023年には、松本から高山の横断的地域（観光圏）を「Kita Alps Traverse Route」と名付け、ロゴも作成し、チームが一体となって、観光圏の磨き上げを進め、「松本高山Big Bridge構想」の実現を目指している。

4．観光委員会を通した気づき

魅力的な観光拠点をつなぎ、唯一無二の体験ができる**観光圏とする**ことで、**高付加価値なデスティネーションを目指す**構想であった。観光における広域連携は効果的であるが、今回の題材のように**大規模な連携ができるとより良い**ことが分かった。